

国際ワークショップ

2013年度から新しく単位化された科目です。タイ・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校とのワークショップを軸とした双方向留学をすることにより、単位取得を目指します。各ワークショップで、異文化交流、英語力の向上を目指し、学生同士の友情を深めます。

タイ「ラジャマンガラ工科大学・タンヤブリ校 (RMUTT)」への留学

ワークショップを通して国際交流を実践。

本学とRMUTTでの各大学で開催される学内各コンテスト上位入賞者であり、一定の成績をおさめた学生のみが参加できるコンテストです。参加学生はタイと日本の双方を行き来することにより異国の文化を理解し、また共同制作というワークショップを通してかけがえのない国境を越えた友情を育むことができるプログラムです。言語は英語で行われ、お互いの参加学生がコミュニケーションをとるために英語の勉強が自然とできるのも魅力のひとつです。

ほほえみの国タイで友情を育もう。

留学先のRMUTTからバンコクまでは車で1時間程度にあり、現代的なビルが立ちならぶ中にも寺院や歴史的建造物があり非常に魅力的な街。また気候は温暖で、朗らかな人が多いタイで参加学生ものびのびと留学ができます。

開講学部：経営情報学部／情報メディア学部／医療情報学部
 種別：選択 配当年次：1・2・3・4年
 単位数：2単位
 開催時期：夏期集中(8月中旬～9月中旬)
 評価：ワークショップでの作品の評価と、レポート・プレゼンテーションの内容により評価する。
 留学先：ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 (RMUTT) / Rangsit-Nakhorn, Nayok Road, Klong 6, Thanyaburi, Pathum Thani 12110
 電話：0-2549-3441
 日程：8月下旬～9月上旬の8日間(予定)
 申込期間：各コンテストとも、5月上旬学内WDC作品応募締切
 参加人数：WEB 8名、ショートフィルム 6名、コンピュータプログラミング4名(予定)
 参加資格：学内各コンテストで上位に入賞したもので、本学の在校生であり一定の学業成績をおさめたもの。
 参加費用：約50,000円
 (留学費用については、一部を北海道情報大学が補助)

※別途食費、現地アクティビティ代、その他お小遣いなどが必要となります。
 ※上記はあくまでも予定ですので、変更となる可能性があります。何卒ご了承ください。

国際交流の歩み

- 2006年 10月 RMUTTから教職員と学生が本学訪問。
- 2007年 本学教職員がRMUTTを訪問。
- 2008年 両大学による国際交流協定を締結。
- 2009年 3月 第1回 WEBデザインコンテスト開催。
7月 理工学部長、工学部長が本学訪問。
11月 RMUTT主催の国際学会 EMSESに参加。
- 2010年 2月 ナムユット学長以下8名の教職員が本学訪問。
3月 第2回 WEBデザインコンテスト表彰式。
- 2012年 3月 第4回 WEBデザインコンテスト開催に伴い相互短期留学が実現。
10月 第5回 WEBデザインコンテスト開催に伴い相互短期留学。
- 2013年 8月～9月 各コンテスト開催に伴い相互短期留学。



タイを代表する国立大学、タイ・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 (RMUTT) との交流は、2006年7月のブラジル・リオデジャネイロで開かれた国際学会「IUPAC MACRO 2006」への参加がきっかけでした。この学会に参加していた本学の穴田有一教授が、同じくタイRMUTTから参加していたチャイオット博士と出会い意気投合し、両大学の国際交流を打診されたのが始まりでした。同年10月、さっそくその実現のためRMUTT一行が本学を訪れ、ソムチャイ

工学部長(当時)以下32名という大勢のRMUTT教職員が本学とSECを見学しました。翌年2007年3月には、本学の井野学長(当時)と穴田教授がRMUTTを訪問し、両大学の教育、学術活動についての意見交換をしました。本学学長(当時)の訪問にRMUTT側も応える形で、同年RMUTTのナムユット・ソントンピタック学長ほか8名が本学を訪れ、表敬訪問しました。このような数回に渡る交流が積み重なり、2008年7月に両大学の国際交流協定の覚書を交

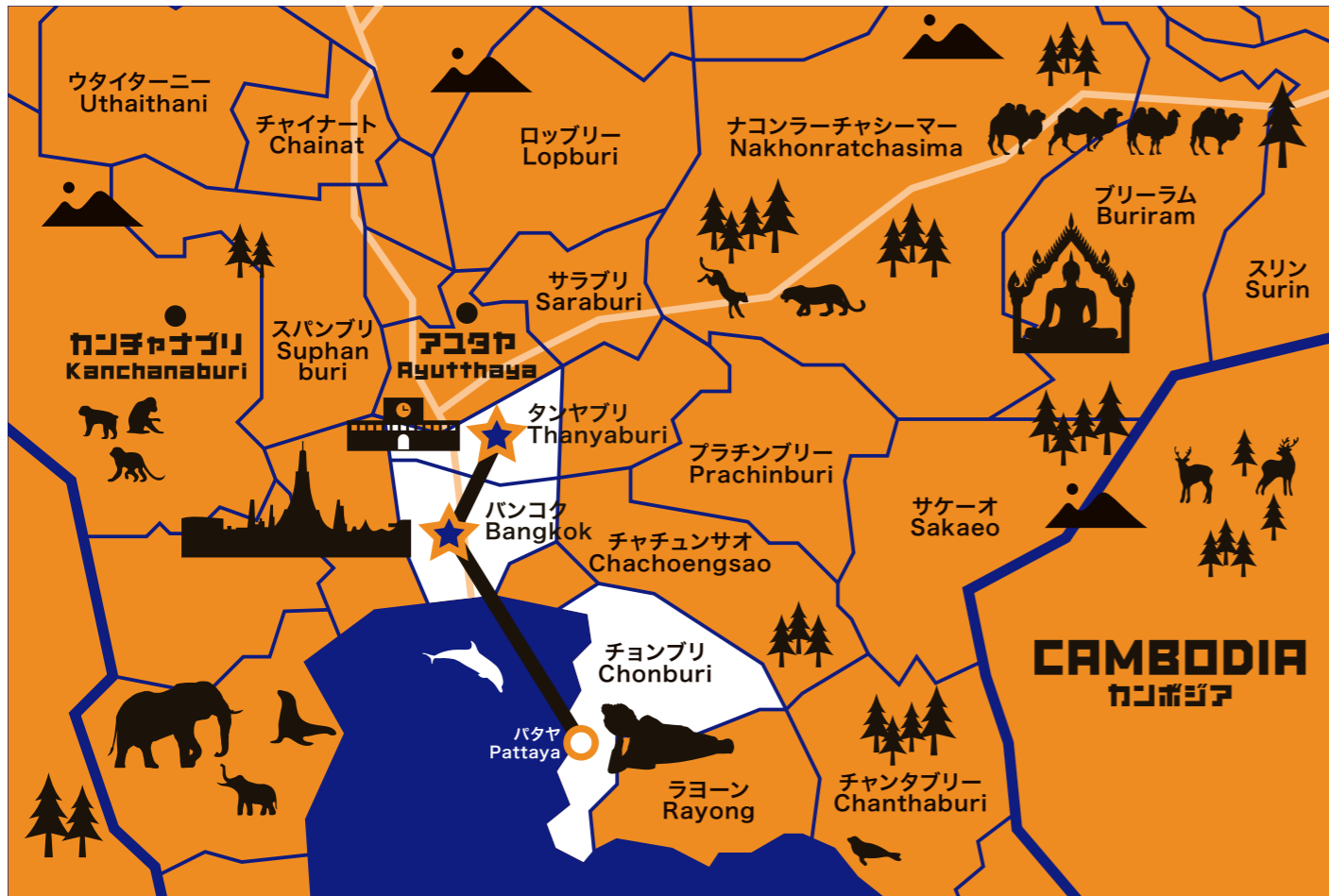
わし、これからの相互発展のために調印式を行いました。本格的に交流が始動したRMUTTと本学が、最初に取り組んだのは2国間によるWEBデザインコンテストの開催でした。このコンテストは参加学生が両大学を訪れ、WEB制作というワークショップを通じて異国文化を学び、友情を育むことができる大変有意義なコンテストとなっています。また今後も他の共同コンテストの開催もみこまれており、RMUTTとの交流はこれから大きくなっていくことでしょう。



THAILAND

古今の歴史と文化が調和し、仏教文化が息づく国。

東南アジアの中心に位置し、国土面積は約51万4,000平方キロメートル(日本の約1.4倍)。ミャンマー、ラオス、カンボジア、マレーシアと国境を接しています。人口は6,000万人で、山岳部にはそれぞれの文化や言語をもった少数民族が暮らしています。また気候は熱帯性気候で、一番暑い4月の平均気温は35度、一番涼しい12月の平均気温は17度です。



バンコクってどんな街?

ほほえみの国といわれるタイ。バンコクはタイ経済の中心、東南アジア屈指の大都市で、都内にはタイ国際航空やバンコク銀行、シン・コーポレーション・グループなどの大企業の本社があります。サイアムスクエアは、若者たちのトレンド発信地として有名なショッピングエリア。巨大ショッピングビルだけでなく、おしゃれなカフェやオリジナルブランドを扱うショップが立ち並ぶ楽しいエリアです。また、日本人に大人気のタイフードも大いに楽しめます。本場のタイ式マッサージを受けてみるのもいいでしょう。バンコクならではの魅力は、なんといっても荘厳な寺院や歴史的建造物などにあります。金色に輝く寺院や仏像の美しさは、一見の価値があります。



首都バンコクから約40kmの郊外にあるのがラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校。工学部、理工学部、演劇・音楽学部、経営学部、教育学部、教養学部など10学部を有し、学生数2万人(大学院生を含む)、教職員数約800人という大きな大学です。広大なキャンパスに

ラジャマンガラ工科大学 タンヤブリ校(RMUTT)の

は学生寮や学生食堂、サッカースタジアムといった厚生施設が充実し、所在県の名前の由来になっている蓮の美術館「ロータスミュージアム」もあります。キャンパスの周辺は巨大な



学生街で、夜もにぎやかな雰囲気にあふれています。ラジャマンガラ工科大学はタイ国内の各地に9つのキャンパスを持ち、タンヤブリ校はそのメインキャンパス。国際交流は非常に活発で、ヨーロッパとアジアを中心に世界中の大学・研究機関と交流協定を結んでいます。タイ王国の教育に対する熱心な姿勢がラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校の精神に流れているといえるでしょう。

特長

RMUTT担当者からのメッセージ

ナツタ先生からのメッセージ

Asst. Prof. Dr. Natha Kuptasthien

Assistant to the President and Industrial Engineering Department Head, Faculty of Engineering



各コンテストに参加した皆様おめでとうございます。コンテストは愉快で、楽しく笑い合いながら友情を育み、生涯忘れることのできない大変貴重な体験となりました。RMUTTを代表して、私どもがHIUの美しいキャンパスを訪れた際の皆様のお心遣いに感謝の意を表したいと思います。タイに皆様をお招きした際も素晴らしい時間を過ごしました。各コンテストは、HIUとRMUTTとの結びつきがより強くなった証です。WDC2014を楽しみにしています。

ウラビス先生からのメッセージ

Dr. Uravis Tangkijviwat

Vice Dean, Student Development Faculty Of Mass Communication Technology



私が各コンテストに3度参加させていただいた中で目の当たりにしたことは、この活動が学生や教授陣が知識を得ることはもとより、文化の差異を超えてお互いが学びあって良い関係を結ぶこと、そこから生まれる笑顔や親しみが、このプロジェクトを成功させる重要なポイントの一つだということです。

いよいよタイへ出発! 8/11 ▶ 8/22 HIU → RMUTT

まずは今回一緒にワークショップをする学生同士の顔合わせとグループを決定します。

グループが決まると、自分たちの制作のテーマに合わせて取材スタート!



スワンナプーム空港到着
HIU選抜の学生がタイ・バンコクへ。

8/11
1日目

歓迎会

8/12
2日目

8/13
3日目

WORKSHOP 開始

RMUTT

アユタヤ

8/16
6日目

バンコク王宮

8/18
8日目

WORKSHOP

いよいよワークショップで共同制作が始まります。テーマは日本とタイの文化比較。1グループはHIU2名、RMUTT2名で構成され、計5グループに分かれて作業します。

8/17
7日目

懇談会

8/20
8/21
10・11日目

WORKSHOP

水上マーケット

パゴダ

8/19
9日目

8/22
帰国日

帰国

WEBデザイン コンテスト ショートフィルム コンテスト コンピュータグラフィクス コンテスト WORKSHOP

言葉も文化も違う双方の学生が、作品制作をより言葉の壁を超え、異文化を理解を深めます。

これからお世話になるRMUTTの寮。食堂のタイ料理がおいしい!



8/30
1日目

新千歳空港到着
RMUTTから今回のコンテストに選ばれた学生が来日。

歓迎会

ようこそ北海道へ!



スワンナプーム空港へ送迎していただきます。

9/1
3日目

芸術の森

初日のオリエンテーションでは、基調講演、著作権についての講義が行われました。

8/31
2日目

開拓の村

WORKSHOP 開始

HIUの学生が帰国してからも、日本とタイと離れてFacebookなどSNSを利用して作品制作を進めてきました。また今日から顔を合ながら一緒に作っていきます!

9/2
4日目

北海道神宮

9/8
10日目

送別会

9/7
9日目

プレゼン

WORKSHOP

今まで作成してきた作品にタイで取材したことを合わせて作品を完成させます。いよいよ追い込み!

9/3
9/4
9/5
5・6・7日目

プレゼン練習

9/6
8日目

札幌

9/10
帰国日

帰国

短い期間ですが、作品制作という共同作業を通じて異文化交流、国際交流をした両校の学生にはかけがえのない友情が芽生えます。



留学 AFTER

やっぱり、タイはおもしろい!
昨年につづいてのタイ。初めてのときより気持ちの余裕もあって、時間を見つけては積極的に街へ出かけたり、いろいろな料理を楽しんだりしました。自分たちで企画した花火や盆踊り、福笑いなどのゲームで交流を深めたことも素敵な思い出です。タイ語学生たちは、みんな明るくてクリエイティブ。あらためて、タイのおもしろさを実感しました。

情報メディア学部 情報メディア学科 14年

澤 翔子



タイ おもいで逸品

タイで見つけたサングラスたち。こういう遊び心が多いのもタイのショッピングの楽しみです♪



苦労したコミュニケーションで、発見したこと。

今回の留学では、日本とタイのかわいいものを集めてまとめるWEBサイトを現地の学生と一緒に制作しました。お互いの母国語ではない英語を使っているコミュニケーションはたいへんでしたが、勉強になったこともたくさんあります。たとえば、タイ語の「narak(ナラ)」も、日本語の「かわいい」も、英語にする「cute」です。でも、「narak」と「かわいい」のニュアンスは同じではありません。どこか足りなくてどこか余分。そんな違いの発見に、いっそう楽しさを感じました。

いつか、日本で会えたら。

二度のタイ留学では、現地の方々にやさしく迎えていただき、充実した時間を過ごすことができました。かけがえのない友だちもできました。この体験は、自分の将来にとって大きな強みになると思います。彼らが日本に来たときは、私も心からサポートするつもりです。



言葉の不安はカバーできる!

「留学する人は英語ができてあたりまえ」というイメージを持っている方も多いと思いますが、僕は英語が苦手。一方、タイの学生はみんな英語が上手で、初めはちょっと圧倒されました。それでも、つたない英語をボディアランゲージなどでカバーしながら話すうちに、自然とコミュニケーションの不安もクリア。英語の準備をしっかりとっておくことはもちろんですが、積極的にぶつかっていく姿勢がなにより大切だと感じました。

タイ おもいで逸品

タイの学生たちにいただいたものです。彼らは自分にも積極的に歩み寄ってきてくれ、また、とてもフレンドリーで、打ち解けあうまでに時間はかかりませんでした。



まさかのサプライズに感激!

留学中に誕生日を迎えました。驚いたのは、現地の学生たちが僕のためにお祝いメッセージの動画をつくって、講堂で上映してくれたこと。まったく予想もしていなかったプレゼントをいただき、生涯の思い出に残る特別な一日になりました。



微笑みを忘れない彼らのように。

映像ワークショップに参加するためのチームでは、タイの学生は誰もが笑みを絶やさず制作を楽しんでいるのが印象的でした。僕が真剣に編集作業していると、「そんなに深刻な顔しないで!」と言われることがしょっちゅう。どんなときも、スマイル。これからも見習っていきたいポイントです。



情報メディア学部 情報メディア学科 14年

安 西 直 樹

タイ引率教育のメッセージ
TEACHERS' MESSAGE

世界へ飛び出し、外国人と友達になる！それは、実際に、あなたに起こることなのです！タイ王国・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校とのワークショップに参加した学生たちは、その後もタイの友人たちとFacebookなどで交流を続けています。次は、あなたの番ですよ！



経営情報学部/先端経営学科
教授 穴田 有一

学生時代に外国の学生と共通のテーマで研究する。これはその人の人生を大きく変える。初対面同士が一つの目的のために、英語で何とか会話し、お互いのスキルを発揮し、目的を達成する事で、自信を持ったはず。見知らぬ同士が外国の大親友になれる！これも、生き方に大きな変化をもたらす。グローバルな人間に育つには、この実体験こそが大切なのだと思う。



情報メディア学部/情報メディア学科
教授 川上 正博

今、日本の様々な企業や人材が東南アジアへの進出を加速させています。「国際コラボレーション」におけるタイ人学生とのWeb制作ワークショップは、制作のスキルアップだけでなく、「アジアでアジア人として働く」というリアルな体験が出来ます。みんなも、この講義を活用し、時代の流れに乗って、新しい世界へ飛び込んでほしいと思っています。



情報メディア学部/情報メディア学科
准教授 安田 光孝

学生時代の海外経験は、その人の成長を一気に加速する。今回引率する中で、そのことを強く実感しました。学生達は、将来様々な場面でその経験を発揮していけるとと思います。映像分野も今後ますます国際化の重要性が増すので、映画やアニメーションの仕事を目指している学生は是非参加してほしい！



情報メディア学部/情報メディア学科
講師 大島 慶太郎

今回のタイへの短期留学を通して、学生がみるみる明るく積極的になっていったのが印象的でした。一生懸命に取り組める環境に飛び込めば、やる気のある学生はどんどん伸びていくのだと思います。みなさんの可能性は無限大です。勇気を出して一歩を踏み出してみよう！



情報メディア学部/情報メディア学科
准教授 島田 英二

先生たちがしっかりサポートしてくれる！



Hot から辛いのが Spicy 好きだ〜

腹ごしらえは、タイ料理！

サバイ！サバイ！
タイはトモダチ

タイは暑いゾ〜

この経験で初めて海外に住みたいと思った！
情報大に入学して良かった！

初の海外、不安もいっぱいだったけど、タイが大好きになりました。

つぎは君だ！
タイへ行こう！

タイの子と今でも仲良しです!!
外国人の友達をつくろう!!

HIU * RMUTT
驚きと発見の連続!!
たのしかった〜

